

8月・月例研修会
吉野川源流・三之公川
原生林「水源地の森」の自然に触れる

桜木 晴代

8月1日(火)、未明の突然の雷鳴に目を覚ます。雨の中の御一行様になるのかと、早朝に恐る恐る窓を開けると何と晴天。ヤッター！でも現地では雨後の行軍か？と不安がよぎる。

24名で定刻の8時に近鉄奈良駅前を出発。一路、川上村へとバスは走る。車窓のオニユリと咲き始めのウバユリが旅に彩を添えてくれていた。

車中では、歴史的な地、宇陀や吉野宮瀧、大滝ダムの詳しい説明があり、当時に思いをはせながら第一の目的地を目指すこと2時間余り。

吉野川「森と川の源流館」に到着。源流館は、立派な建物で、内部も非常に工夫が凝らされており、川上村の歴史、風土、自然、産業などがわかりやすく展示されている。日本最大級のパノラマで源流の森を体験。かけがえのない源流の森からのメッセージを胸に刻む。時間が許せばもっとゆっくり見学したい施設である。

三之公川出合で下車し、まずは、樹々や清く澄みアマゴが泳ぐ川の流れて、岩を覆う瑞々しい一面の苔を眺めながらのランチタイム。

案内の研究員木村さんに従い、山の神に道中の無事を祈る。上西研究員との2班に分かれて出発。いきなり急な階段。「しんどいのはここだけですから」との木村さんの言葉を信じ、歩き始める。

業が廃れたこと、先人たちが残してきた自然と意思を受け継ぎ、三之公川源流の740haを買い取り水源地の森として守っているなどの説明に耳を傾けながら進む。生物多様性がなぜ大切なのかを、樹々から採取して創る生薬を例に説明を受ける。

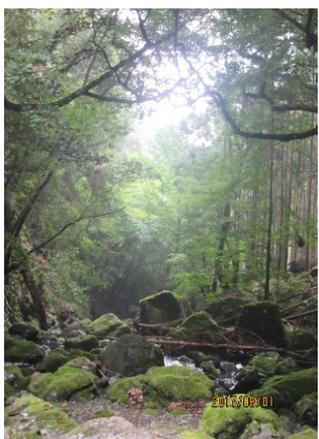


案内中の上西さん



案内中の木村さん

クサギの花、アブラチャンの実を観察。水の滴る苔むした岩肌で瑞々しい姿で咲いていたイワタバコの花が心なやませてくれた。森では日本固有のトガサワラ、シノブイトゴケなども生育し原始的な自然環境が残されている。



樹々と清流のある風景



イワタバコ

苔は土に生えるのではなく、岩に張りつき、川の水蒸気で育つ



シーボルトミミズ

シーボルトが他の動植物の標本と共にオランダに標本を送ったことからの命名



吉野杉の所有者を示す書込み

程なく、美しい大きなミミズに遭遇。名はシーボルトミミズ。シルバーバイオレットで美しい。

吉野林業の特徴や、大阪城築城に吉野杉が使われ有名になったが、近年は採算が取れなくなり林

帰りの車中では木村さんより吉野林業の父、土倉庄三郎の話が披露された。庄三郎は、自らの財産を「三分之一は国のため、三分之一は教育のため、三分之一は事業のため」という信念を貫いたとのこと。女子教育の重要なことを理解し日本女子大設立に尽力したなど、庄三郎にまつわる興味深いエピソードや、丹生川上神社の歴史的経緯など話は尽きず、分かりやすく親しみやすい語り口に皆聞き惚れた。庄三郎は今でも郷土の偉人として尊敬されている。

雨後の、滑りやすい丸太橋や岩場をバランスを取りながら歩くスリル満点の行程。一度は訪れたかったという人も多く、満足の声。

5時過ぎ、全員無事に奈良に帰着した。